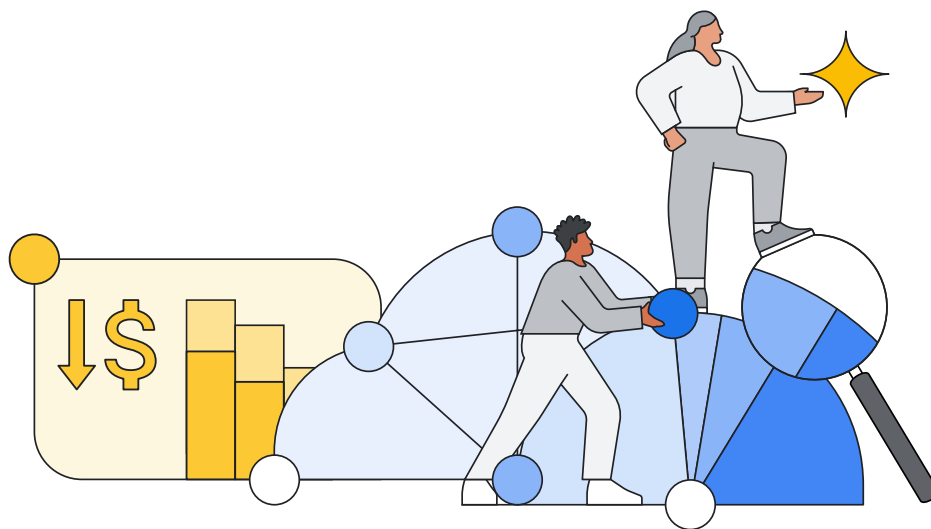


Cloud FinOps による クラウドの財務的な レジリエンスの達成

クラウド費用を削減するための迅速な修正から効果的なコスト ガバナンスの導入まで、Google Cloud の分析情報は、最適化された長期的なクラウドコスト戦略の立案を支援します。



Google Cloud は、現在と将来にわたって財務的なレジリエンスを達成するお手伝いをします。

私たちは経済の状況が急速に変わることを知っています。予測困難な市場状況。インフレの進行。エネルギー、輸入、輸出の費用増加。サプライチェーンの中断。世界中の企業が費用の最適化と再構築に注力しているのは、財務的なレジリエンスを高めるためです。Google Cloud はこれらの課題を解決するために独自に差別化されており、課題の解決に向けてお客様をサポートします。

クラウドの投資を無駄にしないでください。

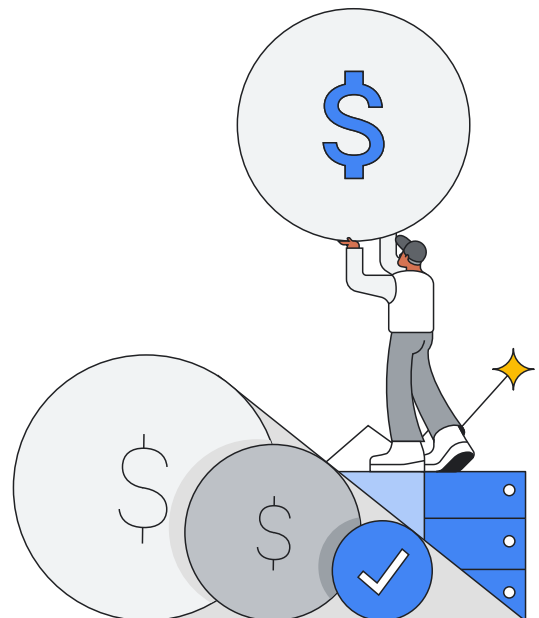
クラウドは企業が IT の資本支出を削減することを可能にする
と広く知られています。しかし、適切に活用されたクラウドは、
運用費用の削減に役立つとともに、イノベーションや新しい
機能の構築の継続もサポートします。実際、2030 年までには、
フォーチュン 500 社がクラウドから 1 兆ドル以上の価値を
実現すると予測されています。

ただし、Flexera™ 2022 年: クラウドの現状調査に回答した企
業に基づき、**無駄なクラウド支出がまだ 28% を超えており**²、
その一因として、クラウド内でオンプレミスの計算とプロシー
ジャーを利用していることが推測されています。無駄なクラウ
ド支出を削減 (または排除) するための創造的な方法を見つ
けることで、OpEx と同様に CapEx も最適化し、最大のビジネ
ス価値を獲得できるのです。

ご存じですか?



実際、2030 年までには、
フォーチュン 500 社がクラ
ウドから **1 兆ドル**以上の価
値を実現すると予測されて
います¹。



¹ McKinsey: 「Cloud's trillion-dollar prize is up for grabs」、2021 年 2 月 <https://www.mckinsey.com/capabilities/mckinsey-digital/our-insights/clouds-trillion-dollar-prize-is-up-for-grabs>

² FLEXERA™ 2022 年: クラウドの現状レポート、<https://resources.flexera.com/web/pdf/Flexera-State-of-the-Cloud-Report-2022.pdf?elqTrackId=f3bb660986704d2980404386aa003141&elqaid=6925&elqat=2>

FinOps のジャーニーはここから始まります。

まず、**Cloud FinOps とは何ですか?** Cloud FinOps は、運用フレームワークと組織文化の変革により、テクノロジー、財務、ビジネス部門を結合して、財務のアカウントビリティを高め、クラウドトランスフォーメーションを通じてビジネス価値の実現を加速させます。[FinOps](#) は、クラウド費用の可視化を実現し、クラウド投資を最大化して、チーム全体でコスト意識を根付かせることを目指す手法です。FinOps は単なる手続きのチェックリストではなく、クラウドを最優先に考える法人として組織を再構築する方法です。もしご興味があれば、[FinOps の詳細](#)をご覧ください。

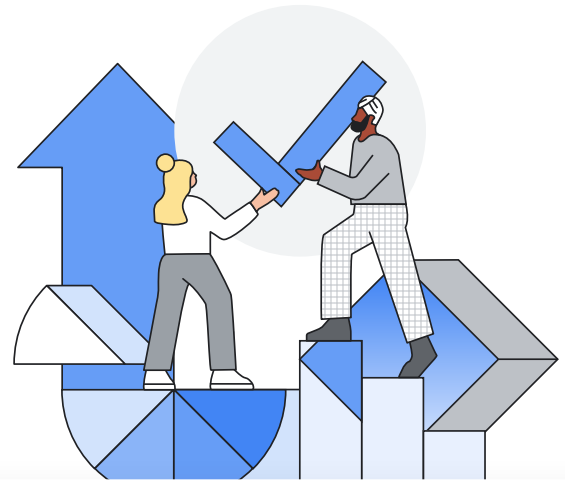


このガイドでは、どのようにして組織の **FinOps のジャーニー** を始めるかを説明します。**目的地は?**

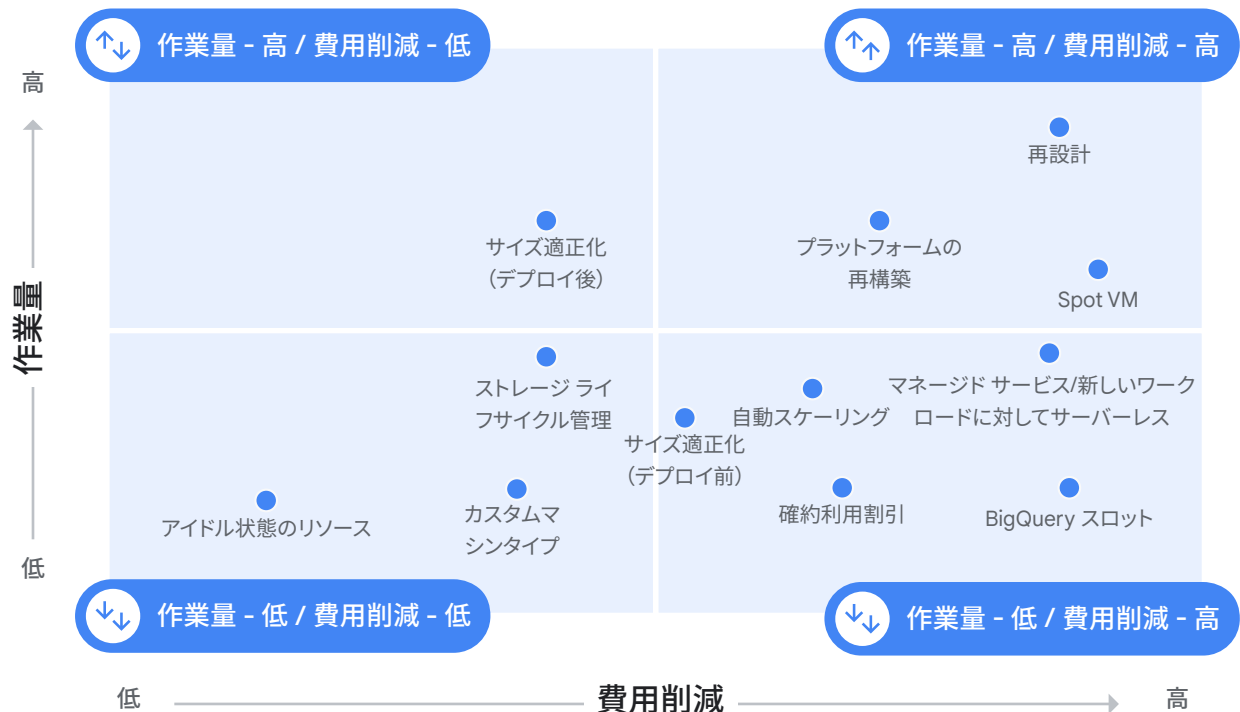
クラウド駆動のマシンで、チームがリソースとワークロードを共有し、それによってリソース費用が削減され、労働ニーズが低減され、ビジネスイノベーションを推進するためのデータと分析情報が向上します。しかし、私たちはジャーニーがしばしば段階的に進むことを知っています。そこで今日から費用の最適化を開始できる 5 つの迅速な方法から始めましょう。その後、FinOps のジャーニーを続けるための 4 つの長期的な方法を取り上げます。

これらの5つの、短期間で成果を得る方法を活用してください。

作業量が少ない変更を優先することで、組織は素早く最大の影響をもたらすことができます。FinOpsのジャーニーを続ける中で、より大きな影響をもたらすために、より多くの作業量が必要な変更を実施することができます。今すぐ実施できるいくつかの主要なクラウド費用最適化アプローチを見てみましょう。



クラウド費用の最適化のマトリックス: 作業量 vs 費用削減



1

アイドル状態のリソースを削除

アイドル状態のリソースはいくつかの理由で発生する可能性があります。もはや使用されていないテスト環境を開始したか、以前ほど使用されていない環境を使用していることなどが考えられます。いずれにしても、アイドル状態のリソースは、見つけることができれば余分なクラウド支出を削減するための対象となります。だからこそ、Google Cloud はアイドル状態のときにプロアクティブなアラートを発し、以下の機能を含む [Active Assist ポートフォリオ](#) を提供しています。



[放置されたプロジェクトの Recommender](#) は、使用アクティビティを分析し、過去 30 日間の使用頻度が低いプロジェクトを特定するツールです。これは、プロジェクトが放置されたか忘れられた可能性を示すサインです。これらのプロジェクトにはまだ課金対象のリソースが含まれているかもしれませんし、そうでない場合も、セキュリティや費用のリスクを排除するためにシャットダウンすることも可能です。



[アイドル状態の VM の推奨事項](#) は、過去 14 日間にわたって使用されていない VM、永続ディスク、IP アドレス、およびカスタム ディスク イメージを特定するのに役立ちます。これらの推奨事項は個々のプロジェクトレベルでコンソール UI に表示されるので、データを一元的に表示するために、[推奨事項を BigQuery](#) にエクスポートすることが最も簡単かもしれません。



[アイドル状態の GKE クラスターの推奨事項](#) は、GKE クラスターが未使用の場合を特定するのに役立ちます。

[PayPal](#) は、短期的な成果とより戦略的な費用最適化の成果の両方を達成する優れた例です。

PayPal は、作業量が少ない機会を特定するための多段階のスプリントを通じて、Google および Deloitte と連携し、アタッチされていないディスク、隔離された VM、および古いスナップショットのアイドル状態のリソースを特定しました。リソースにラベルを付け、削除できるようにするための包括的な手順を実施しました。

PayPal の成果



5% 削減

わずか数か月の分析と実行の後に年間費用回避を 5% 削減しました。



2 クラウド リソースを適正サイズに調整

クラウドの支出を最適化する最良の方法の一つは、実際に使用しているリソースのみに対して支払いを行っていることを確認することです。十分シンプルな方法のように思えますが、次のような適切なツールを使用していない場合、これは驚くほどの難題になるかもしれません。

-  Compute Engine の [適切なサイズ設定の推奨事項](#) を使用することで、VM インスタンスのリソース利用を最適化できます。この Recommender は、[適宜カスタムマシンタイプ](#) を提案することもあります。これにより、必要なコア数とメモリを持つカスタムマシンをプロビジョニングすることで、費用を節約できます。
-  オーバープロビジョニングされた Cloud SQL インスタンスの [Recommender](#) は、特定のワークロードで必要以上に大きなインスタンスを検出するために役立ちます。
-  [Google Cloud Storage Autoclass](#) は、頻繁にアクセスされないデータをコールド ストレージ クラスに自動的に移動し、即座の費用削減を提供するマネージド サービスです。Autoclass は、コールドクラスにあるデータの早期削除と取得に関する費用を削減することで、継続的なアクセスの費用も削減するのに役立ちます。



費用の最適化の仕組みを自社で構築することは、貴重なエンジニアリング リソースの負荷を大きくするだけでなく、時期尚早にアーカイブされたデータの回収費用が発生する高負担の間違いを生じさせる可能性があります。Autoclass はストレージ費用の低減に役立つうえ、シンプルで自動化された方法で料金を予測できます。”

Redis、最高経営責任者
Ian Matthews 氏

3 確約利用割引を最大限に活用

Google は、確約利用割引 (CUD) を含む複数の種類の割引を提供しています。CUD は一括購入と同じようなもので、費やす金額が多ければ節約できる金額も多くなります。仮想マシン、データベースなど、アプリケーション インフラストラクチャのさまざまな部分に適用することができます。CUD には 2 つのタイプがあります:

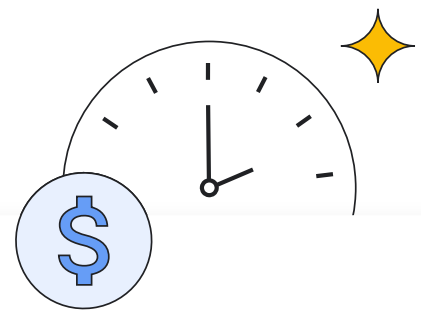
費用ベース:

Google Cloud の請求先アカウントで 1 年または 3 年間、製品ごとに一定の支出レベルを確約すると、最大 40% 割引を受けることができます。予測可能で、支出が最も少ない領域を特定するために、製品の使用状況を分析し、請求[コンソールのレポート](#)や請求[エクスポート](#)を利用することができます。

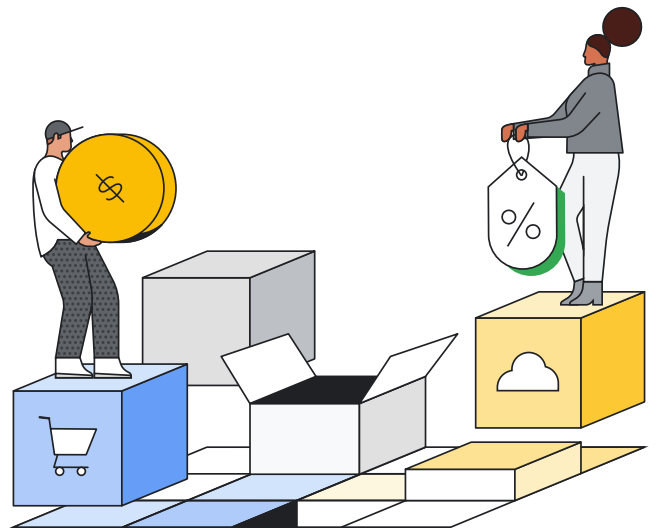
リソースベース:

特定のリソース使用レベルを確約し、さらに大きい割引 (標準 CUD の場合最大 57% まで) を受けることができます。特定の製品のみが CUD をサポートしており、サポートされている製品については[こちら](#)で確認できます。組織に適したものを特定するには、[Recommender](#) を使用してください。

CUD は、リソース使用量の変更を必要としないため、迅速に実装できます。これらの割引は、コンソール UI でアクティブにでき、Google との間ですでに締結されたエンタープライズ コミット デील上にスタックできます。



[Etsy](#) は Google Cloud の CUD を利用し、他の最適化と併せてコンピューティング費用を **42%** 削減しました。



4 マネージド サービスに移行

Google Cloud では、実行しているワークロードの多くに対してマネージド サービスのバージョンを提供しており、これらをオンプレミスで実行するよりも通常ははるかに優れた ROI をもたらします。いくつかの例として、コンテナ用の GKE、データベース用の [Cloud SQL](#) および Memystore、データ ウェアハウス用の BigQuery などがあります。

BigQuery の例を詳しく見てみると、[BigQuery スロット](#)はワークロードを実行するために使用されるユニットで、[オンデマンド モデル](#)と[フラットレート モデル](#)の2つの異なる価格モデルが利用可能です。組織は、ニーズに合った価格モデルを選択することで、大幅に費用削減を実現できます。オンデマンド請求は、スキャンされたクエリごとに行われるため、使用量が予測不能で頻度が低い場合に最も費用効率の高いモデルです。使用量が一定でかなり大きい場合は、フラットレートモデルが最適であり、料金はニーズに基づいて計算され、コミットメントの期間に応じて割引が適用されます。

また、BigQuery を使用する際に費用をさらに最適化するのに役立つ [Active Assist の BigQuery スロットの推奨事項](#)も活用できます。この機能は、BigQuery の使用履歴、支出、およびその他のシグナルに基づいて、「どれだけのスロットが必要か?」というような質問に対する自動的な回答を提供するのに役立ちます。実用的で自動で取得される分析情報と推奨事項で、該当するプロジェクトまたは組織でより期間の長い月次契約に切り替えた場合の費用メリットとパフォーマンスのトレードオフを簡単に把握できます。

ご存じですか?



General Mills は、コスト ガバナンスを強化することで、自身の FinOps の運命を制御しました。Google Cloud プロジェクトで過剰な費用が発生していることが発覚した後、エンジニアリング チームは BigQuery データセットのパーティショニングとクラスタリングの不足を特定し、迅速に修正し、[80,000 ドル以上を節約しました](#)。

5 請求レポートを使用



あなたが直面するかもしれない疑問点の一つは、「チームは数字が見えない場合、どれだけ支出しているかをどうやって知るのか?」です。Google Cloud では、コンソールの請求レポートにアクセスして支出の可視化や分析に利用でき、以下のような質問に答えるのに役立ちます。

- 今月の Google Cloud 支出の傾向はどうなっているか?
- 先月最も高い費用がかかっていた Google Cloud のプロジェクトはどれか?
- 過去の傾向に基づいて予測される将来の費用はいくらか?

始めるのは簡単です。適切な場所でこれらのレポートを有効にし、関連する個人に[請求先アカウント閲覧者](#)のロールを付与するだけです。さらなる利便性を実現するために、[BigQuery Billing エクスポート](#)を有効にすることもできます。これにより、請求データが BigQuery データセットにエクスポートされ、将来の支出の分析やレポート作成時により柔軟性を提供します。

費用の最適化への戦略的アプローチを 続行する場合は、以下ようになります。 : 4 つの主要なプラクティス

上記の 5 つの、短期間で成果を得る方法から始めれば、素晴らしいスタートをきる
ことができますが、先述したように、もっと多くのことができます。クラウドの FinOps
のジャーニーを続けるために、クラウドでの成長を続ける中で戦略的に調整できる
4 つの長期的な方法をまとめました。これらの選りすぐりのベスト プラクティスは、
長年にわたって多くのお客様がクラウドでの費用管理のプラクティスを最適化できる
ように Google Cloud が支援してきた結果に基づいています。

1 評価と整理

組織が成長するにつれて、クラウド リソースの追跡が難しくなる
ことがあります。これにより、クラウドの無秩序な拡散と無駄
が生じる可能性があります。クラウド リソースを効率的に保つ
ためには、堅牢なリソース階層を設計し、費用割り当て戦略を
実装し、コスト コントロール戦略のガードレールとして自動化
を適用します。

リソース階層

部門、チーム、およびプロジェクトのフォルダが自己
完結型で整理されている、信頼性のあるリソース階
層を作成することは、コスト ガバナンスにおいて重要
です。強固な階層がない場合、支出とビジネス価値を
さまざまなワークロードに所属させることはより困
難になります。すべての情報は、プロジェクト内のリ
ソースに付与されたメタデータ(ラベルまたはタグ)
で維持する必要があるためです。

費用の割り当て

リソースを階層的に整理したら、プロジェクトやリ
ソースにメタデータを適用して、特定のフォルダ内
で何が実行されているかをより正確に把握するよ
うにすることができます。「新しいフォルダ」と「新しい新
しいフォルダ」といったデスクトップのような状態は
避けたいものです!

リソースにタグ付け(またはラベル付け)を行うこと
で、部門、所有者、環境などによってリソースを簡単
に識別することができます。

クラウドタグ付けフレームワーク



セキュリティタグ

- 名前
- コンプライアンス / 重要度
- 分類
- 暗号化



自動化のための タグ

- 終了日
- 重要度
- スケジュール OFF
- スケジュール ON



ビジネス タグ

- アプリケーション
- コストセンター
- 重要度
- プロジェクト-ID



テクニカルタグ

- オーナー
- 終了日
- 環境
- 名前
- 関数
- リリース

リソースがこのようにタグ付けされると、特定の製品や部門の運用費用を特定するために、迅速な請求レポートは必要なくなります。タグ付けにより、費用の透明性が提供され、クラウドへの投資に関する情報を元にした意思決定が可能となります。

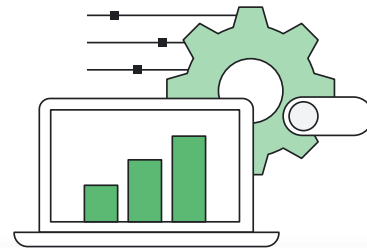
Google Cloud にはリソースにタグを付けるための 2 つのオプションがあります。

Google Cloud でのラベル:

ラベルは、Google Cloud 内の多くのリソースに適用できる、シンプルな Key-Value ペアです。これらのラベルは請求エクスポートに表示され、従来は費用の割り当てを管理するための方法として使用されてきました。ラベルは役立つことがあります、一方でガバナンス、継承、バインディングなどのコストコントロールに有益な特定の機能が不足していることもあります。

Google Cloud タグ:

タグは、Google Cloud の新しい機能であり、ラベルよりも機能が豊富です。タグは、進化したガバナンスツール、バインディング、および継承を通じてクラウド費用の割り当てを容易にします。タグが新しいため、フレームワークをゼロから構築している場合は、ラベルではなくタグを使用することをおすすめしますが、既存のプロジェクトではラベルを維持し、徐々に段階的に廃止することをおすすめします。どの製品タグが請求エクスポートでの公開設定を現在サポートしているかについて詳しくは、[Google の公開ドキュメント](#) およびタグの適用に関する[ホワイトペーパー](#)をご参照ください。



組織はどのように自動化を開始できるか?

- クラウドのロギング、モニタリング、監査イベントなどの**データソースを特定**します。
- あらかじめ定義されたスケジュールまたはイベントベースのトランザクションに基づいて**トリガーを設定**します。
- トランザクションをフィルタリングするために**条件を使用**します。
- 推奨事項、通知やタスクの**アクションを実行**します。

効果的なコストコントロール戦略の一つの例は、自動化された予算とアラートを設定して費用を追跡、制御することです。これにより、組織は実際の Google Cloud の支出を計画された支出と比較することができます。予算アラートのしきい値ルールとメール通知を構成することで、組織は予算との支出の対比を常に把握し、本番環境ワークロードと非本番環境ワークロードのどちらを使用するかを制御するための[コストコントロールの応答を自動化](#)することができます。

コストコントロール戦略

私たちは皆、広範なクリーンアップ作業を行った経験があり、それがわずかな時間で再び散らかった状態に戻るのを見たことがあります。リソースの階層構造とラベル付けを長期間維持し、コストコントロールを確保する鍵は、自動化とガバナンスポリシーを大規模に実装することです。

組織に最適な具体的な予防的コストコントロールは、いくつかの個別の要因に依存します。このプロセスにおいて、Google はあなたのパートナーとなり、組織がカスタマイズされたコストコントロールポリシーのガイドブックを作成するお手伝いができます。そこから、トリガーに基づいて自動化するエンドツーエンドのワークフローを設計します。これにより、組織は費用の散財に対して予防的に保護されます。



2 統合された可視性を実現

測定できなければ、改善することはできません。クラウドでの最適化または投資の決定を正しく行うには、費用と使用状況を完全に把握する必要があります。

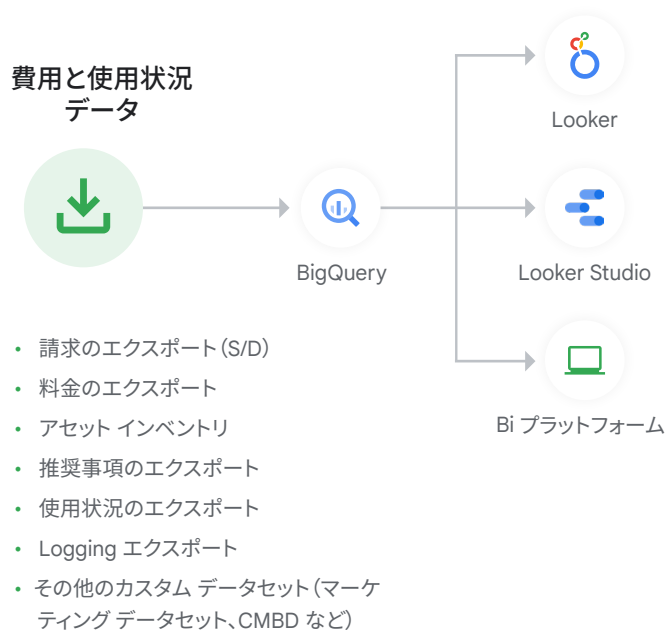
組織のすべてのレベルで自己サービスの費用レポートを提供する方法は？

適切なレポートは、費用のトレンドを明らかにし、ペルソナベースのレポート、リソース利用状況、費用の分析情報、詳細な予測などのユースケースをサポートします。これらは、FinOps クラウドのほぼすべての側面において基本的な要素となります。Google Cloud ネイティブのツール (Cloud Billing コンソールのレポート、料金計算ツールなど)、サードパーティの SaaS ソリューション、社内ソリューションは、すべてレポートと可視化のための方法です。

2023 年の FinOps Foundation の [State of FinOps 調査](#)によると、平均的な組織は、レポート、予測、最適化のニーズに対して 3.7 のツールを使用しています。非ネイティブ互換の製品間でデータが渡されるたびに、分析情報の紛失や統合の不足、データの損失の可能性があります。単一の統合ツールを持つことで、これらの互換性の懸念を排除し、ビジネス価値を向上させることができます。

Google の製品である Looker Pro は、社内ソリューションの採用を加速することができるクラウド費用の分析情報のテンプレートなど、単一の公開設定された情報源を提供します。これらのソリューションは、マルチクラウド アーキテクチャ全体でデータを調和させ、クラウドの支出の全体像を表示します。

BigQuery へのエクスポート



請求データを Looker やデータポータルなどの分析ツールにエクスポートして、クラウドの使用状況や費用を詳細に分析するためのカスタム ダッシュボードを作成することができます。

Google のツールは統合された公開設定、レポート、および推奨事項を提供します。

3 費用の分析情報を収集

チームとコストセンター全体でクラウド費用を明確に把握したら、次のステップはインテリジェンスを活用して使用パターンを分析し、運用上の節約を促進するための分析情報を得ることです。

★ Google の AI / ML 機能が重要な作業を代行します。

たとえば、前述のいくつかの短期間で成果を得る方法で言及した中で、[Active Assist](#) は、費用を削減し、パフォーマンスを向上させるための推奨事項を提供する、クラウド運用を最適化するためのインテリジェントなツールのポートフォリオです。

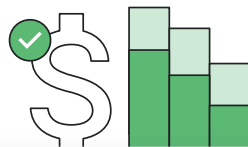
ご存じですか？



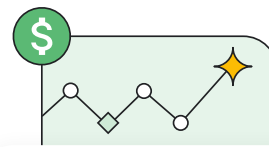
Google Cloud は最近、Forrester Research に調査を依頼しました。この調査によって以下の結果が明らかになりました。「Active Assist を使用することで、組織は仮想マシン (VM) の適切なサイズを設定し、アイドル状態の VM を削除することで、Google Cloud 全体のクラウド消費コストを最適化しました。」さらに、「影響を受けたワークロードでは、Active Assist により全体の消費量が 40% 削減され、3 年間の現在価値に基づく費用削減額が 250 万ドルになりました。」



投資収益率
781%

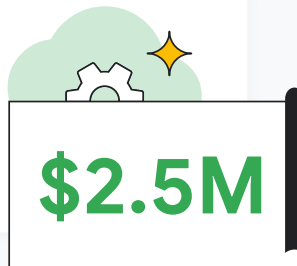


メリットの PV
260 万ドル



NPV
230 万ドル

メリット (3 年)
最適なクラウド消費



\$2.5M

4 チーム全体でのコスト意識の向上

組織がリソースのラベル付け、可視性の向上、分析情報の改善を完了したら、チーム全体でベストプラクティスを文書化し、コスト意識のスキルを育てるためのハンドブックを作成して、獲得した成果を確固たるものにします。

自分自身のハンドブックを作成する準備はできましたか？

始めるためには、[Google Cloud アーキテクチャフレームワーク: 費用の最適化](#)について詳細をご覧ください。以下は、費用の最適化に関する役立つリソースです。

- [コンピューティング、コンテナ、サーバーレス](#)
- [ストレージ](#)
- [データベースとスマート アナリティクス](#)
- [ネットワーキング](#)
- [Cloud Operations](#)

クラウド費用の最適化は、組織にとっての継続的な考慮事項です。これらの推奨事項は、クラウド アーキテクチャに緊密に関与し、製品とエンジニアリング チーム全体で費用を最適化するためのクロス ファンクショナルなコラボレーションを可能にする機会を提供します。



クラウド費用の最適化のライフサイクル



A からビジネス価値へ

常に最適化し、課金傾向を抑制することは重要ですが、顧客活動の増加などの追加要因が、節約を相殺する可能性があります。コストカーブが平坦なままであっても、クラウド費用から生成される価値は捉える必要があります。



Google との変革の過程で、OpenX はクラウドでのユニット当たりのコストを特定するだけでなく、60% の削減を示すことができました。この例は、慎重な計画と計測によって、組織がクラウドを活用したビジネス価値を実現し、証明できることを示しています。ユニットごとの指標の総所有コストを達成することは（広告取引による OpenX の場合のように）、組織内で費用効率を定義する理想的な方法です。確かに、正確なユニット指標を把握することが常に可能であるわけではなく、クラウドの成熟度やパブリックおよびプライベート クラウド、またオンプレミス ソフトウェア上での費用を捉える手段によって制約されることがあります。

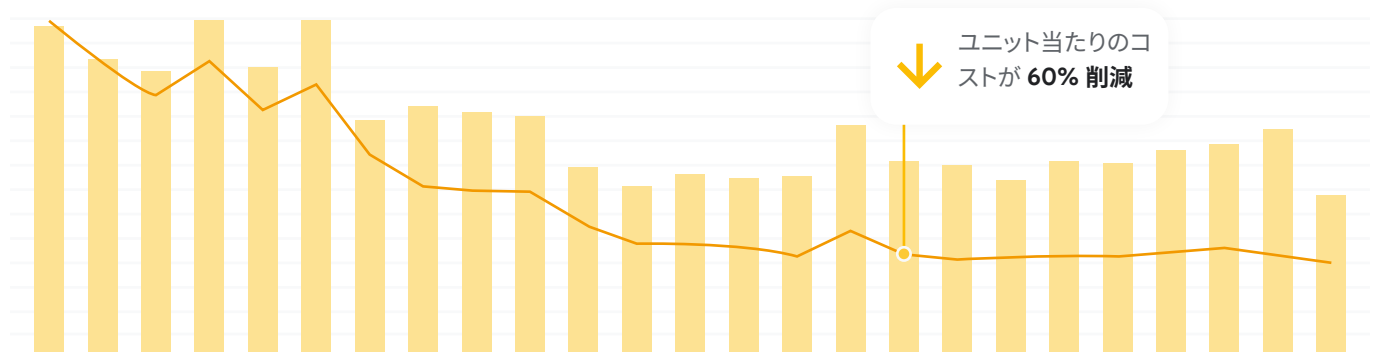
FinOps の実践者は、多くの場合事業部門からのフィードバックを受けます。費用削減策が企業のミッションや成功にどのように貢献するかが明確でないという内容です。実際、オンプレミス テクノロジーにかかるサンクコストの資本購入において、日々の最適化は一般的ではありません。マインドセットを変えて、クラウド費用と価値の測定を企業のミッションに合わせることは、どの成熟度レベルの組織にとっても、クラウドの利点に対する理解と明確さの文化を築くための方法の一つです。

次の 1~3 年間の組織の中核的な目標から始めます。たとえば、衣料品小売会社には 3 つの戦略的目標があるかもしれません：

- データ企業に変革し、衣料品を販売する
- カスタムな店内体験を通じて顧客を喜ばせる
- サステナブルな運用とブランドの効率化を推進する

これらの目標は、チームおよび個々の従業員の目標に展開されるべきです。費用削減を具体的なビジネス価値に結び付けるための主要な方法は、努力をインセンティブ付きの戦略と結び付けることです。

— ユニットコスト
■ 合計費用



ユニットコストの報告

1 データ企業に変革し、衣料品を販売する

この戦略は、各顧客、そのジャーニー、および購買決定を理解することを目指しています。IT インフラストラクチャは、この取り組みをサポートし、クロスデバイスおよびチャネルデータを保管し調和させる必要があります。企業内の個人は、すでにこの企業目標を成功裏に達成するためにインセンティブが与えられています。効果的に変革を遂げ、強固なデータ資産を採用したことをどのように証明できるでしょうか？ストレージから分析、可視化までのプロセスを含む、データの保管や収容にかかる総合的な費用を利用し、データと分析の総合的なテクノロジー費用の成功指標を作成します。

上記で説明した費用の最適化の手段(例: BigQuery スロット)は、これらの費用を削減する効果があります。したがって、費用の最適化は全体的な変革目標に関連しています。たとえば、変革の過程で節約率を達成し、この数値を導かれた価値として示すことができます。

この例をさらに進めて、単なる直接的な総コストだけでなく、ビジネス価値のスペクトラムの他の指標からも価値を抽出することができます。このフレームワークの詳細な議論については、[クラウド FinOps でビジネス価値を最大化する](#)をご覧ください。



クラウド変革における ROI を定量化するビジネス価値指標



費用対効果

インフラストラクチャ、節約、移行、およびサポート費用を通じて費用効率を測定する

インフラストラクチャ
サポート
実装



復元性

サービス品質とセキュリティリスク対策の改善により、業務の復元力を高める

サービス品質
セキュリティ体制
運用の安定性



速度

プロダクトやサービスの提供の流動性を加速することで、製品化までの時間を短縮する

デベロッパーの生産性
リリース頻度
ビジネスのアジリティ



イノベーション

迅速なテストを行う文化を実現することで、イノベーションとクラウド変革を推進する

イノベーション収益率
従業員の体験
顧客満足度



サステナビリティ

組織全体に真の環境的および社会的サステナビリティを実装する

温室効果ガス排出量
電力使用効率
サーキュラー
エコノミー

こうして企業は他の企業目標の推進に取り組むことができます。

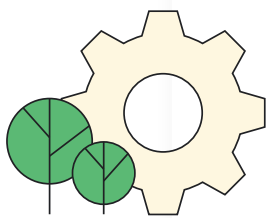
2 カスタムな店内体験を通じて顧客を喜ばせる

これは、イノベーションの柱として、イノベーション収益率などの他のビジネス価値の指標と結び付けることができます。この例では、組織のクラウド エンジニアリング チームは、店舗での体験をモバイルアプリ経由で販売促進広告にマッピングするためのパイプラインを設計します。買い物客は、モバイルアプリのクーポンを提示して店内で20% 割引を受けることを喜んでいますが、POS データを収集し、それを過去7日間にセール商品を閲覧した購入者と紐付けることで、アプリの利用者と非利用者のベンチマークが得られます。これらの計算によって、購入者の体験を革新的なデータパイプラインに結び付けたことから生じる向上が明らかになるでしょう。この例は、組織内で、費用効率を達成することから生じる支出削減だけでなく、より高いビジネス価値を引き出すアクティビティに未使用の資金を割り当てる方法を示すための提唱の材料として利用できます。

組織は、あらゆるビジネス価値の指標で価値が示されるように、クラウドの導入と手法を運用、設計することができます。



3 サステナブルな運用とブランドの効率化を推進する



費用効率は、サステナビリティの目標と強く関連しています。企業がより厳格なガバナンスとプロトコルを採用して廃棄物を減少させれば、直接的に温室効果ガス排出量およびクラウドで使用される電力の割合が減少します。短期または長期の FinOps イニシアティブを推進する組織は、自社の全体的な優先事項に合わせて調整することで、自分たちのアクションを正当化し、明確さを得て支持を集めるのに役立つことがあります。

費用効率スコアカード

会社の目標	サンプル指標
データ企業に変革し、衣料品を販売する	データおよび分析技術の総コスト データおよび分析の総所有コスト
特別な店内体験を通じて顧客を喜ばせる	小売業者のモバイルアプリを使用した買い物客の店舗コンバージョン率とモバイルアプリを知らない買い物客の店舗コンバージョン率との比較
サステナブルな運用とブランドの効率化を推進する	クラウド フットプリントからの間接的な温室効果ガス排出量

こうして企業は他の企業目標の推進に取り組むことができます。

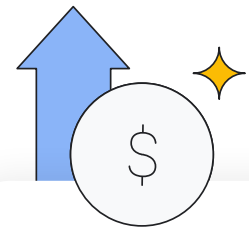
まとめ

継続的なクラウド費用最適化の原則を徹底することは、組織のクラウド変革の成功における重要な要因の一つです。何度も繰り返し見てきたとおり、クラウドのビジネス価値を実現することは、**クラウドファーストの文化から始まります。**

企業をクラウドファーストの組織に変革することで、リソース費用を最適化し、データの分析情報を活用してビジネスイノベーションを推進することができます。多くの組織にとって、この文化的な変革は成長の過程で困難を伴いますが、目標は明確です。クラウド費用の可視化、クラウド投資の最大化、チーム全体でのコスト意識の高いプラクティスの開発です。

FinOps 戦略の指針となる主要な原則と、クラウド費用を最適化し、即座にクラウドの拡散を管理するのに役立ついくつかの短期間で成果を得る方法を示しました。とにかく、今すぐ始めることです。Google と連携して、費用の最適化戦略の策定、実装、実行を進めることに興味はありますか？FinOps コンサルティングプラクティスを利用するためには、お客様のアカウント担当の Google チームに連絡してみてください。

また、FinOps に関する詳しい資料をお求めの場合は、以下のリソースもご覧いただけます：



詳細については、[クラウド FinOps でビジネス価値を最大化](#)をご覧ください。

対話型ツール:

[料金計算ツール](#)

[コスト管理ツール](#)

[Active Assist コンソール](#)

トレーニング動画:

[Google Cloud 費用を理解する](#)

[Google Cloud 費用の最適化 | GKE](#)

[Google Cloud でのオブジェクトストレージ費用の最適化: ロケーションとクラス](#)

[Cloud Storage の Autoclass 機能で費用最適化の簡素化と自動化を実現](#)

お客様動画:

[Google Cloud Next 2020: OpenX の事例紹介](#)

[Google Cloud Next 2022: General Mills の事例紹介](#)

[Google Cloud IT Heroes 2023: 予算削減に向けて最適化する](#)

ホワイトペーパー:

[FinOps のフレームアップ:](#)

[Google Cloud 上でクラウド費用を最適化する方法](#)

[Maximize Cost Efficiency with CUD Optimization Strategy \(CUD 最適化戦略による費用効率の最大化\)](#)

[クラウド費用最適化の原則](#)

[Unlocking the value of Cloud FinOps with a new operating model \(新しい運用モデルが引き出す Cloud FinOps の価値\)](#)

[Driving Cloud FinOps at scale with Google Cloud Tagging \(Google Cloud のタグ付けを使用して Cloud FinOps を大規模に推進\)](#)

[Google Cloud で FinOps を使ってみる](#)

[クラウド FinOps でビジネスの価値を最大化](#)

[Google Cloud Storage のビジネス価値、IDC](#)

[Google Cloud アーキテクチャ フレームワーク: 費用の最適化](#)